

《熊大通信のご紹介》

震災被害の応急対応工事写真掲載～工学部研究資料館

ダメと決めつけるのはたやすい。
しかし、改善の余地ありでなければ、
創造の将来はない。

— 立石一真（オムロン株式会社創業者）



《熊本大学キャンパスにある重要文化財》
熊本大学には4つの国指定 重要文化財があるのをご存知ですか？いずれもレンガ造りの歴史的建造物です。
①資料館（五高記念館）②化学実験場③工学部研究資料館④正門（赤門）です。
2016年4月14日からの震度7の地震で外壁などに被害が発生した為、現在、修復に向けた工事が行われています。
左記は③の工学部研究資料館の外壁の倒れを防ぐ応急対応工事の写真を「熊大通信」から引用させていただいたものです。仮設屋根や外壁シートが無く、このような骨組みだけの光景は初めて見ました。
当社も歴史的建造物の修復の一端を担えることを光栄に思っております。
これから①資料館、②化学実験場なども行われます。壮大な光景ですので、機会があればご覧になってみてはいかがでしょうか？

熊大で生きる君たちへ

修復中の熊本大学工学部研究資料館

オムロン株式会社を創業した立石一真は、大正10(1921)年に熊本高等工業学校電気工学科1期(熊本大学工学部)を卒業した。昭和8(1933)年にオムロンの前身である立石電機製作所を設立し、自動弁売機、電子自動信号機などの開発で、日本のオートメーションを牽引。日本のベンチャーの先駆けとなった。立石が在籍した時代も使われていた幾近50年もの機械工場は、現在熊本大学工学部研究資料館となっており、明治時代から使われていた工作機械や歴史資料などを展示している。熊本大学工学部は平成29年に120周年を迎え、その伝統を次の世代にも受け継ごうとしている。

※熊本大学工学部研究資料館は、熊本地震による被害のため長期休館中です。

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 狭心、命の質に関わる研究
- 11 研究室探訪 子どもたちが「自分を向上できる」その自信を育む体育教育を考える
教育学部保健体育 坂下 玲子 教授
- 13 特集Ⅱ 五高×七高 変わらぬ絆が、今も、ここに。
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【表紙】松永拓己 / 教育学部准教授
特集Ⅰの内容から着想された、医学部の山崎記念堂と記念館である箱(がい)の木を描いた、知と生命をシンボルとした水墨画

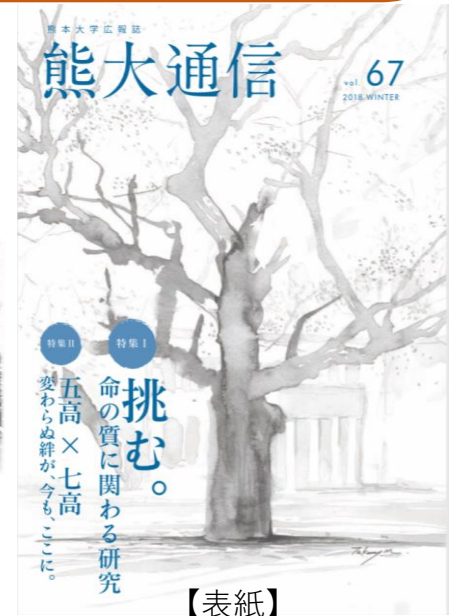
熊本大学広報誌 熊大通信 vol.67

※皆さまの意見・ご感想をお聞かせください。

【発 行】 熊本大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本県中央区黒瀬 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
sus-koho@jinu.kumamoto-u.ac.jp

【編 集】 熊大通信編集委員会
大田学務部 / 編集長、大学法人文化科学研究院(法学系)
鹿本 肇典 / 大学法人文化科学研究院(文学系)
松永 拓己 / 教育学部
松永 隆乃純 / 大学法人文化科学研究院(法学系)
木村 弘昌 / 大学法人文化科学研究院(理学系)
川原 美智子 / 大学法人文化科学研究院(工学系)
永田まなみ / 大学法人文化科学研究院(保健学系)
藤 野 / 大学法人文化科学研究院(薬学系)
藤中 尚人 / 熊本県生涯学習課
編集 正三 / マーケティング推進部広報戦略室

【制 作】 株式会社 創



【表紙】

熊大通信- 熊本大学

熊本大学では、教育研究活動等に関する情報を社会に対して積極的に公表していくため、広報誌「熊大通信」を発行されています。

高等学校等に配付されるほか、熊本県立図書館・市立図書館・八代市立図書館・玉名市立図書館および熊本県庁・市役所にも設置されています。

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kouhou/kouhoushi/kumatu>